令和３年度小松市立国府小学校　学校評価　１（計画）

めざす児童生徒像

・自ら気づき、考え、判断し、行動する子
・何事にも主体的に取り組む子
・目標達成に向けて協働して取り組む中で、互いを尊重し、自分も仲間と共に伸び、みんなで高めていく子

※児童生徒達結果－教員結果･保護者結果

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
学校重点項目（学校で設定）	やかた	主体性・尊重・協働	①②③の姿を目指している教員・児童が, 中間･･･教員80%以上 ･･･児童75%以上 年度末･･･教員90%以上 ･･･児童85%以上	①	自ら気づき,考え,判断し,行動する姿を目指している。						
				②	何事にも主体的に取り組む姿を目指している。						
				③	目標達成に向けて協働して取り組む中で,互いを尊重し,自分も仲間と共に伸び,みんなで高めていく姿を目指している。						
				集計							

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目						達成状況の分析	改善策
石川県共通重点項目	働き方や業務の改善	業務改善	①②とも意識的に行っている教員が80%以上である。	①	80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。						
				②	具体的な方策を持ち業務改善を行おうとしている。						

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（%） 教員	児童生徒	保護者	※差	達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	**③を意識的に行っている教員が中間85%以上、年度末90%以上である。**	①	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。						
				②	研究主題に迫る目指す授業像（児童生徒像）を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。						
				③	教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。						
				集計							
		授業	①②教員・児童が 中間８０％以上 年度末85%以上である。	①	児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。						
				②	児童生徒は、友達と話し合うとき、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて（聞いて）、自分の考えを持つことができている。						
				③	（発表力） 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では,自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章,話の組み立てなどを工夫して発表している。						
				④	（記述力） 児童生徒は、自分の考えを書く機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して書いている。						
				⑤	児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。						
				⑥	児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり，学びに対する達成感を得られたりしている。						
				集計							
	学力の定着	学力調査	④を達成したクラスが １００％	①	学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。						
				②	学校力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。						
				③	近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。（小中連携）						
				④	国語・算数の単元末テストで８０点以上の児童の割合がクラスで８割以上である。						
				集計							
		家庭学習	①の割合が８５％を超える	①	自分で計画を立てて勉強している （３年以上）						
				②	児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている						
				集計							

令和３年度小松市立国府小学校　学校評価２

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・８月提出）	取組の成果と課題（年度末・３月提出）
生徒指導	＜学年・学級活動を活発化させ、主体的によりよい学校生活にしようとする力を育てる＞ ・毎学期始めに「国府っ子学習のきまり」の取り組みを行い、授業規律を徹底し、安心して学習できる雰囲気をつくる。授業での頑張り目標をベルスタ・準備・姿勢・あいさつ返事を基本にして、学級で話し合いを行い、学年で共通した目標に取り組む。 ・学級会でやかたシートを使い、学級目標を立て、年間を通して継続的に学級目標に迫る。学期始めや終わり・行事に向けて目標を立てたり、自分の学級を振り返ったりする活動を通して、よりよい学級にしようとする児童を育てる。 ・仲間づくり(ハートフルタイム)の取り組みを行い、教師と児童・児童と児童をつなげるリレーションづくりを行う。学期始めの月(４・９・１月)は２～３回程度行い、その他の月は月に１回行う。 ・たてわりそうじを行い、高学年が低・中学年にそうじの仕方を伝え、だれもが気持ちよく過ごせる学校を全校でつくる。 ・学年ごとに実行委員を立ち上げ、主体的に学年行事を運営できるように支援する。		
	児童会を活発化させ、より良い学校にするために主体的に取り組む児童を育てる [思いやり行動] 児童会活動を通して挨拶を中心に、思いやり行動の大切さを知り、自ら実行しようとする児童を育てる。各学期に「思いやり週間」を設ける。 全校に思いやり行動を広げるために、代表議会と学級をつなげる. [縦割り活動] 異学年交流を通して高学年のリーダー性を育むと共に、より良い活動をするために考え工夫できる機会とする。 各学年に応じた縦割り活動の目標を立てる。 毎月最後の国府っ子タイムに縦割り遊びを児童主体で行う。 [やかた集会] 児童会を中心に、学校をさらに良くしようという思いを全校で共有したり、頑張っている人を認め合ったり伝えあったりする場とする。学期に一度やかた集会を行う。		
特別支援教育	＜支援を必要とする児童に対して組織的な支援を図る＞ ・1学期中に配慮・支援が必要な児童について担任を中心に実態把握・共通理解を行う。夏休み中に支援策の策定を校内委員会で行う。児童理解の会等で全職員への周知を図る。 ・気づき票を活用すること。支援の結果を常にみとり、その後に生かす。		
道徳教育	〈発達段階に応じた道徳教育を推進する〉 ・児童の実態、発達段階を考慮して、各学年の重点目標を設定する。 ・カリキュラムマップをもとに、重点目標と各教科、特別活動を関連させて道徳教育を行う。 ・校内研修会を行い、授業づくりについて研修する。 ・授業公開やファミリートークの機会を設定し、家庭・地域との連携を図る。		
読書教育	〈読書量を確保し、読書の質的な向上を図る〉 ・読書オリンピックと多読賞を設け、読書に対する意欲を喚起することで読書習慣を育てる。 ・月1回の貸出冊数データを利用し、学級担任が月1回読書指導を行い、全員月に5冊以上本を借りるようにする。 ・「本のとびら」から選定した、各学年の課題図書4冊を1年間で読了する「読む4」の取組を行い、各学期末毎に学級担任と図書担当が読了状況を確認する。 ・図書担当と図書館司書が連携を図ったり、図書委員会の図書フェスなどの取り組みを通し、質的向上を図る。		
保健健康教育	〈心身の健康や運動に関心を持ち、自分の健康への意識向上を図る〉 ・保健指導や保健委員会の活動を通して、感染症予防に取り組む。 ・体育委員会を主に「こくリンピック」の企画に取り組み、年間を通して運動する機会を作り、体力の向上を図る。 ・育友会と連携し、学校保健委員会を通して、体の成長や体づくりや親子で考える機会を作る。 ・週１回、支援員さんやスクールカウンセラーと情報交換の場をもち、気になる児童への支援に役立てる。		
情報教育	〈ICTの積極的な活用を図る〉 ・「GIGA校内研修年間計画」に基づき、研修を進める。 ・教員が、児童の日々の学習や活動の場面でICTを活用する機会を作る。 ・児童が、カメラ機能や発表機能を活用し、考えを発表したり比較したりすることができる。		
家庭・地域社会との連携	家庭・地域の力を生かした教育活動の推進 家庭や地域の力を生かした活動を、教育課程に位置付ける。 ・総合的な学習などで人材を活用する。 ・家庭との双方向の取組を行う。		

学校関係者評価	